

広報

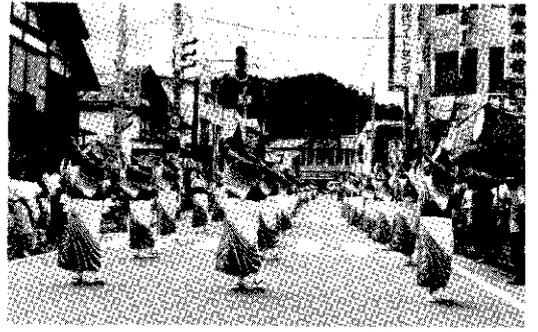
まつだい 1987/8月

■発行 新潟県松代町役場総務課 電話 松代7-2220番 昭和62年8月27日 第333号



《人口の動き》 男2,834(+4) 女2,866(-5) 計5,700(-1) 世帯数1,614(-1)
8月1日現在 出生4 死亡2 転入13 転出16

見つけた 熱い夏



婦人会45名による民謡流し



困りで見ている人の目がイキイキ

机に映った自分と競争だ



祭りだ祭りだ！ 観音祭りだ！

域^{いき}！ 活^{いき}き！ ルネツサンス



今年度町民講座第一弾として、去る7月21日、今冬、日本中をアツと言わせた『雪の仕掛人』安塚町役場矢野総務課長をお迎えし講演をいただきました。

当日の会場は二〇〇人近い聴集でまさに熱気ムンムン。途中退場者もなく主催者を喜ばせました。

講演に続き、町内八団体の代表がパネラーとして登場し、矢野講師にそれぞれの立場から質問、意見交換が行われ、暑い夜も時間の経つのは早く予定時間をオーバーし終了しました。

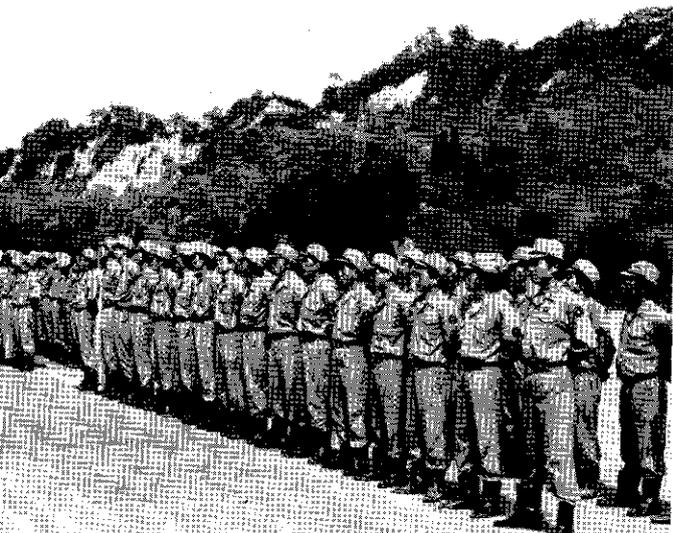
第二回町民講座は九月中旬に、伊達勝身(だてかつみ)氏、北部陸中海岸観光開発(株)専務をお迎えし、講演をいただく予定です。





第3回カラオケ選手権
こんなに大勢聞いてます

カメラが 松代のの



我々が守ります 町民の 生命と財産

◆ 8月9日 町消防団連合演習



▲ 何がナンでも食うだけ



▶ ポーズを決めて
「出発じゃ」



さあ
もう一頭張りヨ



一、地形・地質班

の調査

八月一日から四日間高野先生をはじめ専門家三名。新潟大学院生、上越教育大学生四名の調査班が、浪海水系、鯖石川水系の調査に入りました。そのうち二名は池ノ畑の沢を伊沢へ向けて、岩盤にハンマーを打ちながら地質を調べました。

両水系に鉱泉の湧水を発見して地図上に判然とチェックされていました。

現に湯花もその周辺に発見し、なかなか有望とのことですが、先生方の発表を待つことにしたいと思います。そのヶ所は複数にのぼります。

変わる地質分布図かって新潟大学高田分校の地研グループは数次にわたって東頸城郡東部を広範に調べて、その結果が発表されていますが、そのグループの一員で活躍した米山先生や今回の調査グループの調査でわ

かったことは、岩石の測定方法の格段の進歩と、その後の研究方法の進歩によって。先きの地研グループの地質分布図は大きく塗りかえねばならぬようです。

火山灰の凝固層にしても同時代区分したものが誤差10万年単位の基準では大きな異相結果が出てきて郷土の大地の形成は今まで考えられてきたものよりはるかに複雑だということです。

源太鉄の出る付近と鉱泉湧出とはかなり関係があり、源太鉄の形成過程をお聞きした話など大変おもしろかったです。

今回もまた測定依頼一日日から学生たちの背負袋が重くなりました。四日間に採取した資料(岩石・化石)は上教大の定量分析、あるいは学習院大学の放射能測定に回されますが、結果が出るのは来年三月末の出。

七月の原稿執筆完了までには本文に引用できるとのことです。

井戸にもぐる高野先生。大字松代の中心街旭堂側の掘り抜き井戸の水質が悪い。逆の側は水質がよい何が原因か。このことをたしかめるために四日の午前、鈴木昌信さんの大井戸の水を悉く汲み上げて雨合羽姿で高野先生は頭から真赤な泥をかぶりながら五米の底で地層の土質採取に奮闘しました。

そのお蔭でこの周辺の古い地質、地形の資料が得られました。有毒なガスを吸いながらの作業で、何度か上ってくる先生の顔が青くなるので心配でした。梯子を借りたりポンプを借りたり、よえんさん、高橋園さん、柳竹藏さんには大変お世話になりました。

監督 菅野先生の礼状
「略——この度参上の節は大変お世話になりました。お蔭様で天候にも恵まれ、順調に調査できました。上越地区と東頸地域との関係や東頸の生いたちを指示するいくつかの新事実を発見し得たように思われ嬉しく思っております——以下略」というお便りがありました。八月末から九月はじめにこの調査班は数度来町します。大学院生の一人は名平に下宿を予約して、順次調査を助けてくれます。



「秋の夜長」などと言うとおり、夜長は秋の季語です。

春は日永(ひなが)
夏は短夜(たんや)
秋は夜長(よなが)
冬は短日(たんじつ)

という季語がよく使われます。でも、これを見ておかしいと思う方もいるでしょう。夏は夜が短く、冬は日短いことは確かですが、はつきりとした対称になつてるのはわかりません。しかし、春と秋は昼と夜の長さがだいたい同じで、一概にどち

夜長

らが長いとか短いとかいえないからです。

第一、夜が最も長いのは冬至で、十二月の二十二日ごろです。ではなぜ、秋の夜長かというと、秋分の日(九月二十三日)を境に昼夜の長さが逆転するので、それまでに比べて夜が長いように感じるためだろうとの説があります。たしかに、春には日が長くなつたなど感じるし、秋には日暮れが早くなつたなど感じるものです。

秋の夜長といわれて、読書を思い出す人は旧人類かも……。新人類といわれる人はテレビゲームに親しむことが多いのではないのでしょうか。

夏の暑さが去つたさわやかな秋の夜は、テレビゲームや読書に熱中してしまい、つい夜ふかしをしがちですが、夏バテの回復のためにも睡眠は十分にとりましょう。

九月は「健康増進普及運動」の月です。栄養、運動と共に休養も大切です。



歴史班

はりきる!!

初稿原稿用紙ゆきとどく近・現代史担当のみなさん方は大はりきりです。これは三月までで町助役さんだった鈴木益蔵さんの功績が甚大です。

町役場の生辞引のような鈴木さんは、たんねんに古い役場書類を年次別に整理し、はぐるとホロボロになる古い文書用紙はていねいにそれを写しとってまとめてくれました。

近・現代史班はこれが大いに役立っています。お蔭で、各担当者の意欲がいやが上にも湧いてきました。担当者全員に初稿原稿用紙がゆきとどいたのは近・現代史班だけです。

印鑑登録と印鑑証明

古代・中世班の行脚

古代・中世班は平野団三先生を中心に郷土の分化圏や当時の歴史舞台にかかわりを求めて、川西町、十日町市大字四日町を巡って貴重な成果をおさめました。



春日山(越後)から関東へ戦国時代のルート。更に南北朝時代の関連を求めて、雁ヶ峰を越

えた先きの古道をつきとめ、桐山の二基の板碑と声ヶ崎村(麦有)の板碑の関係も今回はつきりしてきました。

信州志久見村をたづねて長野県下水内郡栄村大字志久見の石沢三郎さんを訪れることができたのも一つの成果です。

川中島の合戦以来の北信の村上氏の動向や、市川家文書で有名な市川氏の動向をお聞きすることができ、深坂峠の古道についても示唆に豊んだ御意見を承わることができました。長野県史でご活躍の同先生を紹介してくださった栄村教育委員会に感謝する次第です。以上。

夏は先生方の調査の最盛期。動物、植物班も随所に姿が見えます。よろしく応援して下さい。

を説明することにいたします。

◎印鑑証明書をください

印鑑証明書の交付を受けるには、その印鑑が町に備える印鑑登録台帳に登録されていることが前提です。

◎印鑑を登録するには

その人の財産や権利義務を左右する実印の登録ですから当然本人が印鑑を持参して登録申請

することが必要です。この場合、本人であることを証明できる免許証等を持参していただきます。

免許証等を有しないときは、すでに印鑑を登録している人から保証人になって頂いて、登録申請書の保証人欄に署名捺印してもらって下さい。

やむを得ない事由で本人が登録申請ができないときは、委任の旨を証する書面を添えて代理人も申請できますが、この場合も保証人が必要になります。

◎印鑑登録のできる人

印鑑を登録できる者は、当町に住民登録をしている、十五才以上の人なら誰でも登録することができます。

ただし、二十才未満の人と準禁治産者は、法定代理人又は、保佐人の同意書の添付が必要になります。

(松代町印鑑条例から...)

最近印鑑登録事件が増えています。中には、お父さんが役場に来られ、おばあさんや、お母さんの印鑑証明書をください。と云われるので、「印鑑登録は済んでいますか？」と聞きますと、「イヤ、してねやでもそ、これを出してくんねかい。」

と、いとも簡単に云われる人が多いのです。

そこで窓口では一通り登録手続きについて、「本人でない登録することはできないのですか!」などと聞きにくいことを聞いてもらうことになるのです。

その人の権利義務を左右する印鑑を登録することは、たとえ夫婦や、親子であっても、勝手にすることはできないことになっています。

これは、個人の権利等を守る目的で定められている印鑑条例に違反することになるからです。「役場の人はやそー、面当くさいことばっか云って! 父ちゃん云ってるが間違いないね!」と云わないでください。お互いが傷つかないための法であり規則なのです。ご理解とご協力を願って止みません。尚詳しいことは、戸籍の窓口にお尋ね下さい。



トシは関係ないよ

町民体育祭(第80回)



▶ アキヤリ、また負けちゃった



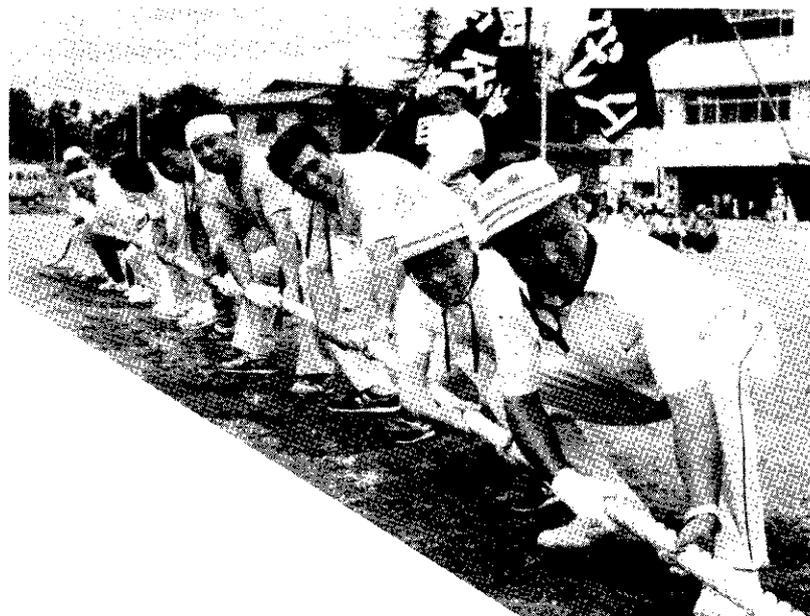
▶ パン食って、サア突進だ



▲ バトンタッチ、ヨシ頑張らなくっちゃ

「健康な明るい町づくり」をテーマに、第8回町民体育祭が八月二日町民グラウンドで盛大に行われました。
足の速さや体力に関係なく、誰でも参加できる種目がいっぱい。団体競技もたくさんあって、みんなで楽しめる体育祭。応援席も一緒になって、手に汗握る熱戦の連続でした。
結果は、優勝・伊沢地区チーム、準優勝・奴奈川地区チーム、三位・松代A地区チーム。

▼ 力も酒も強そうだねえ



◀ ゴール前で勝利の自信かな

スポーツすることに

老人スポーツ大会(第12回)



◀ 頭をもんで、
まずは頭の体操です

▼ カゴがチッタア高えぞ



七月三十日、第十二回老人スポーツ大会が町民体育館で行われました。
もう十二回にもなるんですね。大会が長続きするのは、面白いゲームに、みんなが楽しく参加してくれるからではないでしょうか。
今回集まった人たちも、大きな声を出し、精一杯体を動かし、腹を抱えて笑い、ゲームに熱中していました。



▼ アラヨッ、片足上げてもこのとおり



▲ ホレ、後んしょ 取ってくんねかい

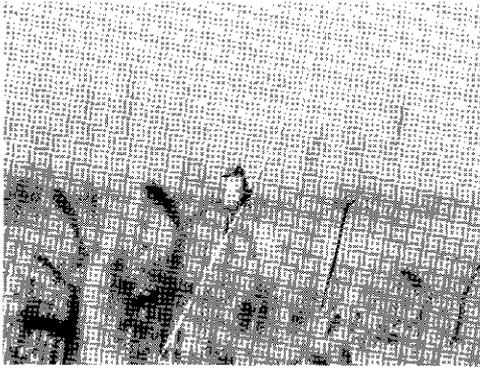
松代町の野鳥 オオヨシキリ⑥

松永 洸

前回、カッコウを書きましたので、今回は被害者？側のオオヨシキリについて、書いてみたいと思います。

ギョギョシ、ギョギョシ、ケケシ、ケケシ、チカチカ と忙がしそくに、草原で鳴く、オオヨシキリは、ヒタキ科ウグイス亜科に分類され、カッコウに托卵される被害者？の一種です。

松代町には、五月下旬ころ渡来するようです。海岸地方では雪消えが早く、四月下旬ころから五月上旬にかけ渡来しますが松代町では雪消えが遅く、生活



場所の草原の草が小さすぎて、生活するには早すぎ、海岸地方より渡来が遅いと思われます。

しかし、雪が消え、草もやや大きくなると、待ちきれずに松代町に渡来します。オオヨシキリを追って、カッコウも渡って来ます。

県内でも、草原がだんだん少なくなり、オオヨシキリが棲める草原は数えるほどになってしまいました。松代町でも、草原

は少なく、休耕田の小さな草原や、川岸、田河川の草原に、細ぼそと生活しているにすぎません。草原の減少とともに、オオヨシキリの姿も少なくなり、カッコウも少なくなると思います。

オオヨシキリは、草原に依存して生活する鳥のため、生活も子育てもすべて、草原を中心とした地域で、巣は、草の茎に、禾本科の植物の葉、茎、根、穂糸、紙などを使用したり、最近では、ビニールヒモなども使用して、コップ型の巣を作り、中には、四〜五個の卵を生み拾卵し



ます。産卵の際、巣を空けると、すかさずカッコウが卵を生みつけるのです。卵と生みつけられた後のことは、前回のカッコウを読んでもらえば、わかると思います。

オオヨシキリを観察していますと、眠る時間があるのかと思います。と言うのは一日二四時間、サエズリっぱなし、と言ってもよいほど、サエズルのです。

柿崎に勤務していた時に、夜オオヨシキリを観察したところ夜中の一時間位鳴きやむだけであとは、ずーっと鳴きっぱなしなのです。長野県での調査では二四時間のうち、雄が鳴きやむのは、午後七時二〇分〜午後八時二〇分の間だけだったそうでした。雄のサエズリは一〜二週間遅れて雌がナワバリ

北越北線について
北山小学校
六年 池田 博美
私が松代町に汽車が通るとい
うことを知ったのは、三年生の
時でした。それは、社会科の見
学で松代町を一周していた時に
役場の後ろに行ったら、すごく
広い場所があったので、先生に
お聞きしたら、駅ができるとお
しゃいました。私は、初め駅が
できると信じていませんで
した。けれど、トンネルもあ
るので本当だと思っ、てきました。
その後、先生から、駅の前に立
ている建物は農協の倉庫だとい
うことを教えてもらいました。
松代町の特産物が十日町や直江
津地方に送られれば、とても、
もうかると思います。そうすれ

に現われると、雄は鳴きやんでしまつたとのことで、オオヨシキリのサエズリは、雌を呼ぶことに大きな意味があるものと思われまふ。雌が抱卵すると、雄は独身気分になつたように、サエズリ、別の雌と番になり、多い雄は、三、五羽の雌とつがうこともあり、一夫多妻が多いといふことです。条件のよい草原では一夫多妻が多く、条件の悪い草原では一夫一妻が多く、もつと条件の悪い草原では雄だけで雌は見あたらなことがありまふ。

オオヨシキリは、歌によまれりたりしていますが、その生態はよくわかりません。昭和三六年から、昭和六〇年までの二四年間に、一〇、〇六三羽のオオヨシキリが標識放鳥されましたが、渡つて行く先がわかりません。日本国内での回収例が、八例あり八羽が回収されていますが、

回収率〇・〇八%と非常に低く渡り経路がナゾとなつてゐる鳥です。オオヨシキリの寿命は、標識調査結果から拾つてみますと、一九七四年六月一日に、成鳥で標識放鳥されたものが、一九八二年七月一八日に回収され八年一カ月もの間生きていたことがわかりました。標識時成鳥であつたことから前年生まれといふことが考えられますので、もう一年多く、九年一カ月は生きていたものと推定できるのです。

松代町で、この鳥を観察できるところは、松代城山裏の休耕田、海老地内、池尻から室野に通じる渋海川沿いに棲んでおりサエズリも姿も見ることができまふが数は多くないようです。時々新聞で、白いツバメ、白いスズメなどがニュースとして放道されますが、このオオヨシキリも、色素遺伝子の欠落で、

白化する個体が多い鳥です。これまで標識調査で、何羽かの部分白化の個体を標識した経験があります。

オオヨシキリは、あまり姿は目立ちませんが、サエズリは、遠くでも聞こえ、昔から歌によまれ、伊藤左千夫の歌に「さみだれの、また降り出づる夜の音の、奥つ田舎に 行々子鳴く」というのがあり、占泉千樫に「草村は、いまだ繁らず榛の木 の、青葉がぐれに、葭切の 鳴く」といふ歌があり、夜も鳴いてゐることや、草がまだ小さいうちに渡つて来て草原近くの榛の青葉のかけで鳴いてゐる生態をよく観察していることがわかりまふ。

松代町のオオヨシキリは、どこに渡つて行くのでしょうか。昭和35年4月2日から昭和45年4月1日まで生まれた男子で高校卒業程度の学力を有する者(大卒は除く)

新潟県警察官募集

○受付期間

7月13日(月)～9月9日(水)まで

○試験日

昭和62年9月27日 日曜日

○試験地

新潟市、長岡市、上越市、新発田市

○採用

昭和63年4月1日以降

○受験資格

○申込先

新潟県警本部警務課

Tel〇二五―二八四―三三三―

お近くの派出所・駐在所へ

は、建物かふえ他の地方からも
 人がたくさん来て活気づくと思
 います。

私は北越北線の開通した時
 のことを夢めています。例えば
 汽車に乗ると松代小学校の人が
 作つた歌が松代に近づくたびに、
 車中に流れればいいと思います。
 それと汽車の中の模様は松代の
 景色をかいたりしてある汽車が
 いいです。他の土地からきた人
 も、はやく松代の歌や景色が
 ぼえられると思います。それに、
 松代町に親しみを持つ人がふえ
 ると思います。

はやく北越北線が開通するよ
 うに、そこで働いている人は、
 かんばつて下さい。

今日も今夜も



の用心

農作業による事故を防ごう

防災シリーズ

62

収穫の秋

米をとりまく情勢は厳しいが、でも収穫の喜びは格別。また忙しい農繁期が近づいてきました。作業におわれても、「火の元」「作業事故」等に充分注意して頑張ってください。

☆農繁期の火災予防

○留守宅からの出火防止

留守宅からの火事は発見が遅れ大火になりやすいので、出掛ける時は「火の元」の再点検をしましょう。

○乾燥機からの出火防止

使用前に機能に異常ないか、ホコリの堆積がないか等、充分に点検清掃し、作動中は常に監視しましょう。また燃料には危険物（灯油）を使用する場合は多いことから、特にこれら危険物の取扱いに注意しましょう。

○焚火からの出火防止

最近、ワラ、屑、モミ殻等が焼却される場合が多く、これらの焚火を起因とした山林火災、

建物火災が発生しています。不要物を焼却する時は周囲の状況等に配慮し、危険のない場所で実施しましょう。

☆農機具による事故防止

耕運機、トラクター等による転落などの事故、コンバインによる手指の損傷等不注意による事故が毎年この時期になると各地で多発します。安全作業を心

がけ、豊作を喜びあえる秋にしたいものです。



用件は正しくあわてず119番

●救急車を呼ぶときの3つのポイント●

1. 救急事故などの発生場所と近くの目標
2. どのようなケガか病気が
3. ケガ人や病人の現在の容態（簡単に）



9月9日は「救急の日」

■ 9月1日は「防災の日」

いざというときのために

家族防災会議を



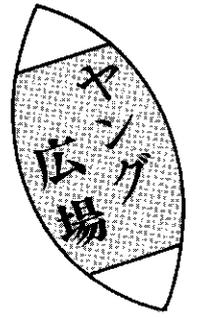
もし、いま地震が起きたら……残念ながら現在の科学では、地震の発生を防止することはできません。しかし、ふだんから地震に対する心の

準備をしておけば、被害を最小限度に抑えることができます。

9月1日は「防災の日」です。これを機会に、家族みんなで「家族防災会議」を開いて

ください。そして、いざというとき、それぞれがどのように行動すればよいかを考えてみてください。家族防災会議では、次のようなことを話し合ってみてはいかがでしょうか。

- ▶ 家族の役割分担
- ▶ 火の始末と初期消火の方法について
- ▶ 離ればなれになったときの家族の連絡先と連絡方法
- ▶ 避難場所と避難路の確認
- ▶ 水、食料などの備蓄と非常持出品の準備
- ▶ 家具・危険物などの点検整備
- ▶ 家の回りの危険な場所の点検



Uターンして思う事

関谷厚子

私が松代町に帰って来てから早いもので二年が過ぎようとしています。やはり私には、こちらの生活の方が私らしくいられる様な気がします。

都会にいた三年半は、とてもめまぐるしい日々でした。仕事に追われ、時間に追われ、いつも焦っていた様に思います。

自分一人が、取り残されてしまったような気がしていました。高校を卒業したばかりで、世間の事など何も知らないのに、大人っぽく、何んでもわかってい

るようなふりをして……背伸びしていた気がします。



今にして思えば、おかしくて恥ずかしい事ですが、その時は、それしか考えられなかった。それでも一生懸命だったのです。

そんな中でも一番うれしかった事は、他人の痛みを自分の痛みとして、一緒に考え、泣いてくれる友人に会えた事です。お互いに離れてからも、お互いの事を気づかいながら、電話で話したりしています。

こちらは帰って来てからは、自分の家に居るという事で、家族に甘え、厳しさが足りなくなりました。決して甘える事なく、精一杯の努力をしていかなければならないと思います。

今は青年団の活動や、地域の行事に参加させていただきなから、いろんな方々と話をさせていたでいています。私にも、気がるに声をかけて下さいます。そうした中で、松代町に残っている同世代の人達とも、いろんな話をしてみたいと思います。

また、松代の良さを忘れかけている人達に、思い出ししてもらえような、元気の源にしてももらえるような事を、見つけられたい、と思います。

私もこの松代町のどこかで、きつと暮していくことになると思います。自然の繰り返しの中で、最も厳しい冬を乗り越えてゆく事で、自分自身に後悔のないように……後悔しても、立ち直れるほどの強さを持ちつつけて行きたいと思います。

会い」で菅井太一さんが知った人もこの里見(菅井)さんだったのです。

絵は、輿を担ぐ子供と線香花火、それに満天の星の下に螢が飛び交う田沢部落です。

現在、少年センターに「スマイル」美衣」を連載中です。また、先月の広報「東京での出

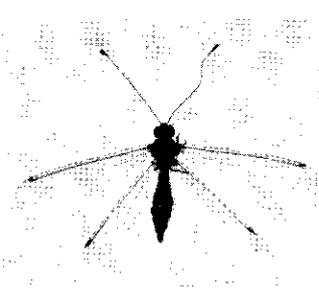
漫画家、里見桂さんをお願いしました。

今月の表紙

漫画家、里見桂さんをお願いしました。

里見さん(本名、菅井信夫)は田沢部落出身で菅井与市郎さ

ハイ・パチリ



写真のトンボを見て、これがトンボ? と思いませんか。

立派にトンボと名前がついており、分類学上、脈翅目ツノトンボ科のオオツノトンボです。トンボよりカゲロウに近いそうです。

ツノトンボ科には、写真のオオツノトンボのほか、ツノトンボ、キバネツノトンボの二種類があります。

松代のトンボに、注目してみませんか、かわったトンボがいるかも知れません。

(文責 松永 洸)

戸籍の窓口

七月受付分

幸せ多い人生を(結婚)

牧田和也・小堺美幸 (峠 高札)

佐藤一重・若月厚子 (室野・安兵エ)

げんきなよい子に(誕生)

木村 遥平 父隆夫 母香乃子 (二男・松代・鉄道公園)

市川 文恵 父 正 母綾子 (二女 松代 靴屋)

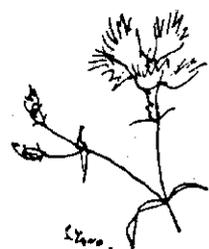
柳 康貴 父辰樹 母文枝 (長男 松代 日本生命)

齊木 重樹 父正孝 母紀子 (二男・中子・しも)

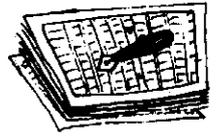
ご冥福を祈ります(死亡)

中村ヤノ 96歳 儀明与左エ門

齊木誠一郎87歳 中子 山の根



文芸



短歌 山鳩

野石 念

外灯のあかり及ばぬ川縁の闇を
慕ひて螢群れおり

落ち着けば流れに向きて流され
ず尾を打ち振ふ目高の群れは

頭上より鳴きしきる蟬は似たる
とも米価の下がるかつてなき夏

露に濡れ朝なわがもぐ茄子に胡
瓜僅かなれども大事にしたし

暁にはや鳴き出でしかなかなの
声にまぎれてうつつ眠りぬ

山鳩の間をおく次の声待ち
起きがたく居れば朝日さし来ぬ



しづみ句会

凌霄の咲きのぼりたる大藁屋
端居して夫婦二人の遠花火

六花

背を濡らす露の冷たさ胡瓜もぐ
累代の墓に相座す蟬しぐれ

紅茶

また一戸村去る噲秋立つ日
行商の女を見ている燕の子

去水

植えおきし釣鐘人參花やさし
ふる里の山にあふるる蟬時雨

八千代

夏菊を賞でて一枝いたゞける
紫陽花の鮮やかにして雨上がり

喜沙

紫の色つややかになすび漬け
新緑に包まる墓地に母眠る

千登世

夏登山軽装仕立てで発ちにけり
夕涼み釣竿持ちて発ちにけり

一元

朝霧の窓辺に近しほととぎす
富士見城方緑に白く聳えたち

世香

いく種類蟬の声あり山昼寝
ほてい草コップに活けて涼みけり

公明

山迫る保倉川筋合歡の花
蛇の衣玉石垣にへばりつき

淡水

蒲生句会

泥鰯つづ腕にこぼるる稲の花
山影の迫る棚田に穂肥うつ

鐵堂

草むらに螢火沈む雨の宵
尻二つ天にさからい田草取る

月日

唐黍のもぎたて蒸かす昼寝起き
子燕が巢に戻りおり夜に入りて

爽風

うねらせて田の面吹く風蟬時雨
競いつつふくらみ揃うグラジオラス

ふさ女

かなかなが北と南と西東
蟬時雨聞かせてやりぬ長電話

耕人

涼風と古き曲がり屋無人駅
夏草のはびこる村の休耕田

折人

家潰え昼顔蔽う古井戸あり
鶏頭の口紅ほどの花立てし

耕山

ぶな大樹百千の蟬宿しおり
ねむの花語り継ぐべし彼のいきさ

龍峰

園芸一口メモ

松代園芸愛好会

野に咲く花

オトコエシ

各地の日あたりのよいかわいた山すそや原野などに生え、オミナエシに似た多年草で、花は白く夏から秋にかけて茎の頂上に小さな花がむらがつて咲きま

す。
オミナエシは女性らしくオトコエシは全般に大型で男らしいのでオトコエシと名づけられたとか、草丈は五十糎から一米程になり、葉は羽のようにさける。昔はききんの時この葉を食用にしたそうです。

オトコエシの由来

昔は、男は米のメシ、女はあわのメシで、オミナエシは黄色で花の形があわメシのようで、オトコエシは、白い米の飯のようだったからです。



オトコエシ (オミナエシ科) 別名オトコメシ
開花期 7~8月